

自己評価票

| 項目                           | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目)  | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                      |
|------------------------------|---|---|---|
| <b>I. 理念に基づく運営</b>           |   |   |   |
| <b>1. 理念と共有</b>              |   |   |   |
| 1                            | ○地域密着型サービスとしての理念<br><br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている  | 「安心」「安全」「親切」をモットーに個人個人との心のふれあいを大切にケアの対策に取り組んでいる。  | ○<br><br>伝統と情緒ある祭りにかかわり合いながら、日常生活を活気づけていく共有事項としている。 |
| 2                            | ○理念の共有と日々の取り組み<br><br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる   | 掲示したり、朝の申し送り等で唱和しながら取り組み共有化している。  | ○   |
| 3                            | ○家族や地域への理念の浸透<br><br>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる   | 広報や館内の掲示等でわかり易く明示している。  | ○   |
| <b>2. 地域との支えあい</b>           |   |   |   |
| 4                            | ○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献<br><br>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会への参加</li> <li>・融雪溝の集会行事</li> <li>・公民館まつりへの参加</li> <li>・権利擁護事業の活用</li> </ul> 等、地域への取り組みに関わっている。 | ○<br><br>キャラバンメイトの勉強会に取り組んでいる。                      |
| <b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b> |   |   |   |

| 項 目 |  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)           |
|-----|--|--|------------------------|--|
| 5   | ○評価の意義の理解と活用<br><br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる  | 常に共有事項として取り組んでいる。  | ○                      |  |
| 6   | ○運営推進会議を活かした取り組み<br><br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている  | 2ヶ月に1回の推進会議を実施して、周辺の高齢者の生活状況や行政からの情報収集をしながら、入居者へのサービス向上に活かしている。        | ○                      |  |
| 7   | ○市町村との連携<br><br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 推進委員の一員としてかかわっていただき、施設への要望、介護保険の改正、講話の依頼など、必要に応じて提供依頼をしながら、課題解決を図っている。 | ○                      | 地域福祉権利擁護事業では特に携っている。                     |
| 8   | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br><br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している  | 概要を理解しながら実際に制度を利用し、活用支援している。   | ○                      | 今後は、権利擁護事業や成年後見制度について、全職員に学ぶ機会の共有事項としたい。 |
| 9   | ○虐待の防止の徹底<br><br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている  | 館内では、ポスターの掲示などをして職員への理解度を深めている。又、家族とのコミュニケーションを図りながら防止策にも努めている。        | ○                      | 特に管理者は、常に職員や入居者と接点を持ち、虐待防止策に努めている。       |

| 項 目                    | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目)                                     | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                                 |
|------------------------|---|--|--|
| <b>4. 理念を実践するための体制</b> |   |  |  |
| 10                     | ○契約に関する説明と納得<br><br>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている            | 特に分からない疑問点について、所点について具体的に引き出す働きかけをして、同意を得ている。              | ○  |
| 11                     | ○運営に関する利用者意見の反映<br><br>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている           | ・意見書箱を設置している。<br>・相談し易い雰囲気づくりを働きかけながら面会時や受付時は、進んでことばがけをする。 | ○<br><br>面会の機会が多くあるので、苦情お処理の対応には、早目に検討できる体制づくりにある。             |
| 12                     | ○家族等への報告<br><br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている         | 面会する機会を多く設けて、家族の物品管理への関心度を深めさせたり報告を常に行っている。                | ○<br><br>暮らしぶりや、健康状態、受診状況などの生活状態に関心が持てるように、日用品の把握をしながら働きかけている。 |
| 13                     | ○運営に関する家族等意見の反映<br><br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている           | 意見書箱の設置、推進委員会等の提言で気軽に意見の反映を働きかけている。                        | ○<br><br>毎日のケアサービスの参考に反映させたい。                                  |
| 14                     | ○運営に関する職員意見の反映<br><br>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                       | 運営に関連したカンファ等を実施しているので、気軽に意見を伝える雰囲気づくりをしている。                | ○  |
| 15                     | ○柔軟な対応に向けた勤務調整<br><br>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 業務上、調整を図っているが、状態に応じて管理者が代行している。                            | ○  |

| 項 目                |  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                 | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|--|---|------------------------|---------------------------------|
| 16                 | ○職員の異動等による影響への配慮<br><br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 異動に関しては影響を受け易いので、さり気なく簡単に報告をする。尚、改たな交流に対しては、馴じんでくれる対応策をアプローチする。 | ○                      |                                 |
| <b>5. 人材の育成と支援</b> |  |   |                        |                                 |
| 17                 | ○職員を育てる取り組み<br><br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている              | 途中からの入社時、4月入社時には接遇に関する研修、あるいは3ヶ月試用期間として進めて職員育成に取り組む。            | ○                      |                                 |
| 18                 | ○同業者との交流を通じた向上<br><br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている    | 地域の研修へは進んで参加し、ネットワークづくり、空室状況との情報・交流をもって室の向上に努力している。             | ○                      |                                 |
| 19                 | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み<br><br>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる                                    | 職員互助会を通して交流を深めている。(歓迎会、ビアガーデン、施設見学、忘年会等)                        | ○                      |                                 |
| 20                 | ○向上心を持って働き続けるための取り組み<br><br>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている                           | 健康診断の実施や、有資格を活かし、努力あるケアなどを把握するように働きかけている。                       | ○                      |                                 |

| 項 目                              | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目)   | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |   |
|----------------------------------|--|--|--------------------------------|---|
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>       |  |  |                                |   |
| <b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b> |  |  |                                |   |
| 21                               | ○初期に築く本人、家族との信頼関係<br><br>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 入居期間中はいつも仲よく話し合えるように、介助者と共に活動し、家族にも頻回に面会をおねがいしたり、面会後は、帰宅願望に陥らないように働きかけている。 | ○                              |   |
| 22                               | ○初期対応の見極めと支援<br><br>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている               | 本人の生活状況等を聞き取りしながら、共通の話題をみつけてコミュニケーションを図る努力をしている。                           | ○                              |   |
| 23                               | ○馴染みながらのサービス利用<br><br>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している   | 本人が最も大切にしているものとか、よりどころにしている持ち物等を持参して、安心度を高めた支援をしている。                       | ○                              |   |
| <b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b> |  |  |                                |   |
| 24                               | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br><br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている       | 時間をみつけてコミュニケーションを図ったり、清掃時は、あいさつや言葉のやりとりをしながら入居者の生活状況の把握に努めている。             | ○                              | 特に個人の生活歴を大切にしながら笑い合えるコミュニケーションを図っていきたい。 |

| 項 目 |  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-----|--|--|------------------------|--------------------------------|
| 25  | ○本人を共に支えあう家族との関係<br><br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている         | 来館時、又は電話連絡等で近況報告をし支援方法を相談しながら、よりよい家族関係を目ざしている。 | ○                      |                                |
| 26  | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援<br><br>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している             | 入居者本人の長所をとらえながら、家族との絆が途絶えないようにアプローチしている。       | ○                      |                                |
| 27  | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br><br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている                | 本人がこだわる人名、名称等を尊重しながら楽しい思い出が消えないように話題の援助に努める。   | ○                      | 希望に応じて、いつでも外出できる体制づくりにある。      |
| 28  | ○利用者同士の関係の支援<br><br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている              | 介護者が仲立ちとなり、コミュニケーションの輪の中に入るように支援をしている。         | ○                      |                                |
| 29  | ○関係を断ち切らない取り組み<br><br>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 介護度のレベルに応じたサービスの母体施設があって、相談窓口として対応している。        | ○                      |                                |

| 項 目                                   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目)                                      | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |  |
|---------------------------------------|---|---|--------------------------------|--|
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>    |   |   |                                |  |
| <b>1. 一人ひとりの把握</b>                    |   |   |                                |  |
| 30                                    | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している  | 本人とのコミュニケーションの中で、又は家族からの聞き取り等で利用者本位の意向を把握している。              | ○                              |  |
| 31                                    | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                    | 入居者の生活歴をとらえながら、状況の把握に努めている。                                 | ○                              |  |
| 32                                    | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている  | センター方式の活用と共に日常生活がどのように過ごされているか。把握に努めている。                    | ○                              |  |
| <b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b> |   |   |                                |  |
| 33                                    | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している     | 面会時の状況、希望等の聞きとりや、施設での生活ぶりを職員間で話し合いながら介護計画の作成にあたっている。        | ○                              |  |
| 34                                    | ○現状に即した介護計画の見直し<br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 3ヶ月に1回、介護計画の見直しを行ない会議の中では、情報収集し合い、継続すべきか終了するか、ケアプラン作成としている。 | ○                              |  |

| 項 目                                |  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|--|---|------------------------|---------------------------------|
| 35                                 | ○個別の記録と実践への反映<br><br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている    | センター方式で経過状況を記録しながら共有の計画の見直しに努めている。  | ○                      |                                 |
| <b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>           |  |   |                        |                                 |
| 36                                 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br><br>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている              | ・週1回の医療連携体制の看護師指示のもとに体調管理を支援している。<br>・行事の中ではデイサービスとの交流を実施。必要に応じてはティタイムに参加したりしている。 | ○                      |                                 |
| <b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b> |  |   |                        |                                 |
| 37                                 | ○地域資源との協働<br><br>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している             | 民生委員は推進委員としての協力を得たり、文化祭の見学に協力を得たり、又は駐在の方には、地域報告消防署には救急法の指導や避難訓練等のかかわりを随時得ている。     | ○                      |                                 |
| 38                                 | ○他のサービスの活用支援<br><br>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている  | デイサービスセンター浦町との交流会を持続している。   | ○                      |                                 |
| 39                                 | ○地域包括支援センターとの協働<br><br>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 特に権利擁護制度の利用を協働している。   | ○                      |                                 |

| 項 目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                  | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|---|--|------------------------|--------------------------------|
| 40<br>○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している  | 家族の希望でもあるので、入居前の担当医で治療を継続している。                                   | ○                      |                                |
| 41<br>○認知症の専門医等の受診支援<br>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している  | 市内、黒石病院神経内科で認知症に関する相談をしたり、治療をしている。                               | ○                      |                                |
| 42<br>○看護職との協働<br>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている   | 毎週、金요일に訪問看護ステーション（三笠）で来館し、健康管理の支援をしている。                          | ○                      |                                |
| 43<br>○早期退院に向けた医療機関との協働<br>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している                      | 本人の状況観察の為に見舞ったり、治療、又は退院日等の情報を相談し合っている。                           | ○                      |                                |
| 44<br>○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している                                   | 家族と相談しながらの医療対応とする。   | ○                      |                                |
| 45<br>○重度化や終末期に向けたチームでの支援<br>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | バイタルチェックにより平常値を保てず悪化状況にある方は、担当医の指示で入院になる場合が多い。「重度化や終末期には対応していない」 | ○                      |                                |

| 項 目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                     | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|--|---|------------------------|--------------------------------|
| 46<br>○住み替え時の協働によるダメージの防止<br><br>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 詳細は情報提供票で対応している。                                    | ○                      |                                |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>   |   |                        |                                |
| <b>1. その人らしい暮らしの支援</b>   |   |                        |                                |
| (1)一人ひとりの尊重  |   |                        |                                |
| 47<br>○プライバシーの確保の徹底<br><br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                                       | 入社時「個人状況保護」に対する誓約書で確認認識し、誤解のないような言葉遣いで対応する業務を行っている。 | ○                      |                                |
| 48<br>○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br><br>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている                   | 本人が選択できるような場面づくりに心がけている。                            | ○                      |                                |
| 49<br>○日々のその人らしい暮らし<br><br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している                        | 本人の希望を優先しながらも、対応難の場合は介助人をかえたり、介護方法や時間を変更したりの工夫策をとる。 | ○                      |                                |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援   |   |                        |                                |
| 50<br>○身だしなみやおしゃれの支援<br><br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている                                    | 本人希望の店で散髪したり、介護員が散髪している。                            | ○                      |                                |

| 項 目                                 |  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|--|---|------------------------|--------------------------------|
| 51                                  | ○食事を楽しむことのできる支援<br><br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 手伝える範囲内で配膳したり、盛りつけ、食後の片づけ、ふき掃除等を一緒に行っている。                                 | ○                      |                                |
| 52                                  | ○本人の嗜好の支援<br><br>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している              | 本人の好む甘酒や好きな飲みものは家族に協力してもらっている。  | ○                      |                                |
| 53                                  | ○気持ちよい排泄の支援<br><br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している          | 介護度の低下により排泄の失敗も多くなってきているが、個々のパターンを把握しながらトイレ介助の支援をしている。                    | ○                      |                                |
| 54                                  | ○入浴を楽しむことができる支援<br><br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している      | 週2回の入浴のほか、陰部のただれや皮膚疾患のときは週4回～5回の入浴の実施をし支援をしている。又、一人ひとりの入浴温度にも配慮している。      | ○                      |                                |
| 55                                  | ○安眠や休息の支援<br><br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している                       | 本人の希望を重んじているが、疲労感のみえる場合は、臥床を促している。  | ○                      |                                |
| <b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b> |  |   |                        |                                |
| 56                                  | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br><br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている    | 施設周辺の植物、野菜等の観察、ドライブ、花の観賞等の楽しみごとを支援している。又、一人ひとりに合った働きかけをしながら花への水やりも支援している。 | ○                      |                                |

| 項 目                   |   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|--|------------------------|--------------------------------|
| 57                    | ○お金の所持や使うことの支援<br><br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している         | 主に家族が管理している。<br>必要時には、立てかえたりして領収書と交換している。  | ○                      |                                |
| 58                    | ○日常的な外出支援<br><br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                           | 市内の祭りを（夜店まつり、ネプタ、よされ祭等）見学したり、季節にあわせた花の観賞、ドライブに出かける機会をつくっている。                     | ○                      |                                |
| 59                    | ○普段行けない場所への外出支援<br><br>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している        | 病院受診、公園の散策、美容院、又は家族同伴での外出の機会をつくっている。   | ○                      |                                |
| 60                    | ○電話や手紙の支援<br><br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている                                  | 公衆電話を活用しているので、状態に応じて支援している。  | ○                      | ケイタイの活用もあって、状態に応じて支援をしている。     |
| 61                    | ○家族や馴染みの人の訪問支援<br><br>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している                   | 時間の設定の中でいつでも来館できる対応や、訪問時には、声掛けをして過ごしやすい雰囲気づくりを心がけている。又、施設見学も気軽にいつでも来館できるようにしている。 | ○                      |                                |
| <b>(4)安心と安全を支える支援</b> |   |  |                        |                                |
| 62                    | ○身体拘束をしないケアの実践<br><br>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人内で学習会（月、1回）を開催しており勉強会に取り組んでいる。   | ○                      |                                |

| 項 目 |  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)              | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                      |
|-----|--|--|------------------------|---|
| 63  | ○鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる     | 夜間業務に入るときのみ施錠している。                           | ○                      |   |
| 64  | ○利用者の安全確認<br>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している              | 終始リーダーを中心に所在確認に努めている。                        | ○                      |   |
| 65  | ○注意の必要な物品の保管・管理<br>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている        | 刃物は最上級棚におき施錠、薬の管理は職員室の上段に保管している。             | ○                      |   |
| 66  | ○事故防止のための取り組み<br>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる     | 年2回の避難訓練を実施。転倒防止の為の見守り、声掛けでの対応等、全職員に周知されている。 | ○                      |   |
| 67  | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている               | 救急マニュアルに基づいて対応している。落ち着いた対応が身につくように訓練している。    | ○                      |   |
| 68  | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 家族、民生委員、町内会長等、推進委員のみなさんに理解と協力を日頃より働きかけている。   | ○                      | 夜間を想定した避難訓練を実施したり行事を通して、日頃から交流し合い、周辺への協力体制を働きかけている。 |

| 項 目                              |  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                            | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)   |
|----------------------------------|--|--|------------------------|---|
| 69                               | ○リスク対応に関する家族等との話し合い<br>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている | 個室での生活であることを説明する。高齢なので、転倒や、急変することもあり得るので、理解と協力を話し合う。       | ○                      |   |
| <b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b> |  |  |                        |   |
| 70                               | ○体調変化の早期発見と対応<br>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている           | 毎日のバイタルチェック、排泄、排便、食事摂取量等の確認を全職員で共有し、異変時はすみやかに落ち着いて対応する。    | ○                      |   |
| 71                               | ○服薬支援<br>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている       | 服薬整理係が責任をもって管理し、用法について説明できるように、用紙も一緒に見やすいようにファイルに閉じている。    | ○                      |   |
| 72                               | ○便秘の予防と対応<br>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる         | 便秘をしたら、水分補給や牛乳で対応してそれでも、無理だったら、医師に相談して排便をコントロールする。         | ○                      |   |
| 73                               | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている                   | 食事の歯みがき、うがいを促し口の中をきれいにするように支援をしている。                        | ○                      |   |
| 74                               | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている      | 摂取量の少ない時は、体調に応じたメニューの変更とし配慮している。栄養(管理)士の献立に基づいた摂取法を支援している。 | ○                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・献立や摂取状況について管理栄養士と相談出来る体制になっている。</li> <li>・行事食で希望の献立を取り入れている。</li> </ul> |

| 項 目                            |   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------|---|---|------------------------|--------------------------------|
| 75                             | ○感染症予防<br>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）   | せっけん水で手洗い、うがいの予防につとめ、ノロウイルスに関しては、提供する生ものすべてを熱湯をくぐらせてから調理する方法をとっている。           | ○                      | 最新の情報を収集し、職員間で周知徹底している。        |
| 76                             | ○食材の管理<br>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている  | 食器は消毒機に入れている。<br>まな板、包丁はキッチンハイターを使用。排水口はパイプマンで消毒している。                         | ○                      |                                |
| <b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> |   |   |                        |                                |
| <b>(1)居心地のよい環境づくり</b>          |   |   |                        |                                |
| 77                             | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫<br>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている                              | ・面会する側、入居者の外出、お見送りする時など自由に出入りできるように、スペースを広くしての雰囲気づくりにも努力している。<br>・腰かけを設置している。 | ○                      |                                |
| 78                             | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 歩行運動ができるように廊下、そして周辺には季節感もてるような飾りのアピールをしたり、入居者の作品等を展示して、関心や興味を持つように配慮している。     | ○                      |                                |
| 79                             | ○共用空間における居場所づくり<br>共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 入居者同士でコミュニケーションが図られるよう長椅子、ソファ等を設置している。又、新聞、雑誌、しない広報等をいつでも読めるような環境づくりをしている。    | ○                      |                                |

| 項 目                           |  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                               | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)       |
|-------------------------------|--|---|------------------------|--------------------------------------|
| 80                            | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br><br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み<br>のものを活かして、本人が居心地よく過<br>せるような工夫をしている | こだわりの持ちものを持参して居室では自分の好<br>きな時間をすごしている。(テレビ、パズル、読<br>書、他)      | ○                      |                                      |
| 81                            | ○換気・空調の配慮<br><br>気になるにおいや空気のだよみがないよ<br>う換気に努め、温度調節は、外気温と大き<br>な差がないよう配慮し、利用者の状況に応<br>じてこまめに行っている   | 館内は常に換気に努め、入居者がリビング等にす<br>ごされている時は窓を解放して常に空気の入<br>れかえに配慮している。 | ○                      |                                      |
| <b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b> |  |   |                        |                                      |
| 82                            | ○身体機能を活かした安全な環境づくり<br><br>建物内部は一人ひとりの身体機能を活<br>かして、安全かつできるだけ自立した生活<br>が送れるように工夫している                | 廊下、洗面所には、木製手すりの設置、トイレ<br>は、個々にL字バーを設置し、自立支援に配<br>慮している。       | ○                      |                                      |
| 83                            | ○わかる力を活かした環境づくり<br><br>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱<br>や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ<br>うに工夫している                          | それぞれの得意とするおしぼりたたみ、新聞た<br>たみ、配膳、花の水やりなどを協力ねがい<br>工夫している。       | ○                      |                                      |
| 84                            | ○建物の活用<br><br>建物を利用者が楽しんだり、活動でき<br>るよう活かしている   | 長方形型建物なので、行事の場合は特にさま<br>ざまな活用ができる。                            | ○                      | 行事、避難訓練の時は、デイサービスとの交流<br>が深まって利便性あり。 |

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

| V. サービスの成果に関する項目 |  |   |
|------------------|--|---|
| 項 目              |  | 取 り 組 み の 成 果<br>(該当する箇所を○印で囲むこと)                           |
| 85               | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる                      | ○ ①ほぼ全ての利用者の<br>②利用者の2/3くらいの<br>③利用者の1/3くらいの<br>④ほとんど掴んでいない |
| 86               | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある                         | ○ ①毎日ある<br>○ ②数日に1回程度ある<br>○ ③たまにある<br>④ほとんどない              |
| 87               | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている                            | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない    |
| 88               | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている                 | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない    |
| 89               | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている                           | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない    |
| 90               | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている                     | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない    |
| 91               | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている            | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない    |
| 92               | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ ①ほぼ全ての家族と<br>②家族の2/3くらいと<br>③家族の1/3くらいと<br>④ほとんどできていない    |
| 93               | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている                 | ○ ①ほぼ毎日のように<br>②数日に1回程度<br>③たまに<br>④ほとんどない                  |

| 項 目 |   | 取 り 組 み の 成 果<br>(該当する箇所を○印で囲むこと)                           |
|-----|---|---|
| 94  | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ○ ①大いに増えている<br>②少しずつ増えている<br>③あまり増えていない<br>④全くいない           |
| 95  | 職員は、生き活きと働けている  | ○ ①ほぼ全ての職員が<br>②職員の2/3くらいが<br>③職員の1/3くらいが<br>④ほとんどいない       |
| 96  | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                           | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない    |
| 97  | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                       | ○ ①ほぼ全ての家族等が<br>②家族等の2/3くらいが<br>③家族等の1/3くらいが<br>④ほとんどできていない |

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・地域の行事や伝統ある祭り（こみせ祭り、ネプタ、よされ踊り、文化祭、他）に積極的に参加し社会とのかかわりを持ちながら交流を深めている。
- ・入居者同士でコミュニケーションが図れる場所を提供し、持続させている。
- ・コミュニケーション技法に基づき、こだわりを持ってさらに入居者との交流を図っている。